



LRTはコミュニケーションツールだった！富山・高岡

■1997年に富山県高岡市の万葉線が存続の危機にあるということで、講演に招かれて、京橋朝市などの街づくり運動から、路面電車環状化プランが生まれたことを話した。鉄道や路面電車ですらにやって来た人々のサロンとしての京橋朝市の機能も話した。

■その高岡市では、万葉線は第三セクターとして再生され、MOMO型の超低床電車は6両にもなって、昼間はほとんどバリアフリー車両で運行されている。しかも地元出身作家ゆかりの「ドラえもん電車」も導入され、土日には家族連れのお客が全国から訪れるようになり、ドラえもん電車グッズもたくさん作られている。だが交渉には10年かかったそうだ。

■万葉線は来春の北陸新幹線開業に合わせて、高岡駅大改造を機に、駅舎内部まで乗り入れることができた。従来日本では、広島・豊橋を皮切りに高知・鹿児島・熊本・横川などで路面電車駅前広場乗入れによる、乗継利便性向上が行われてきたが、ついに究極の駅舎内乗り入れが実現したのである。



■岡山駅でも路面電車の駅前広場乗入れの検討がようやく始まるが、これからの本格的高齢化社会を視野に入れるならば、できる限り駅舎に近づけることが必要だ。高岡の路面電車乗り場には、エアコン付の待合室が完備され、バスの切符売り場もあり、当然ながら電車の到着案内システムなども備えられている。岡山でも最新のシステムを入れて欲しいものだ。

■一方、高岡の隣の富山駅では、来春の北陸新幹線開業に向けて、路面電車・富山地方鉄道の駅前乗入れ工事が佳境に入っていた。既に駅の北側には富山ライトレールが開業しており、新幹線開通後数年して両者は駅構内乗入れの形で相互乗り入れが実現する。3階は新幹線ホーム、2階は在来線ホーム、1階は路面電車LRTホームとなるわけだ。

■富山でも富山ライトレール7両、富山市内環状線3両、富山地鉄2両の低床電車が投入されている。また都心環状線沿線では都市再開発事業がどんどん進んでいる。富山市長はコンパクトシティーの実現には路面電車LRTの活用が不可欠と、様々な製作を打ち出しており、都心居住には様々なインセンティブがある。

■富山ライトレールは岡山のMOMOと同タイプの車両を7色のレインボーカラーに塗り分けて、おしゃれで斬新なデザインになっている。平日昼間、お年寄りたちが街に出るようになって、乗客の20%を占める。また花束を持って乗ると料金が無料になるというサービスも行っている。おしゃれでかわいい電車に乗って、まちに出ている人との会話を楽しむ。ついでに買い物したり映画も見たりもする。電車で街に出れば、お酒だって飲めるし、好きなところに回遊していける。電車が便利なら人が街にあふれる。

■だから自動車や携帯電話と同じように、LRTはコミュニケーションツールであったのだ。インターネットだって、Facebook だって、ラインだって同じこと。人間は「人の間」と書くように、言葉によって意思疎通し交わる社会を作ることが、人間社会の特徴なのだから。人間は常により良きコミュニケーションツールを求めているのだ。

■新しいコミュニケーションツールであるLRTは、便利でかっこよくて、かわいくて、波及力がなくちゃいけない。だからLRTの象徴として岡山の低床路面電車MOMOも、水戸岡さんに「恋の生まれるようなデザインにしてください」と頼んだのだが、女子高生たちがまず「かわいい」と言ったものだ。

